



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月8日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名  
 コード番号 4118 URL <http://www.kaneka.co.jp>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 角倉 護  
 問合せ先責任者(役職名) 経理部長 (氏名) 鈴木 啓司 (TEL) 06-6226-5169  
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)  
 (百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	136,058	△2.4	8,779	2.0	7,131	△11.3	4,600	△10.7
28年3月期第1四半期	139,374	2.5	8,607	76.5	8,044	64.8	5,150	72.8

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △2,245百万円(—%) 28年3月期第1四半期 10,233百万円(162.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	13.87	13.86
28年3月期第1四半期	15.38	15.37

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	564,820	303,123	50.8
28年3月期	577,251	308,722	50.6

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 286,835百万円 28年3月期 292,208百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	8.00	—	10.00	18.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	9.00	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	280,000	0.1	18,000	△6.2	16,000	1.2	10,000	0.9	30.15
通期	600,000	8.1	42,000	9.9	38,000	15.0	23,000	9.6	69.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	350,000,000株	28年3月期	350,000,000株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	18,246,908株	28年3月期	18,356,481株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	331,663,263株	28年3月期1Q	334,867,311株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は、平成28年8月8日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成28年4～6月、以下「当第1四半期」)の世界経済は、全体として力強さを欠く展開でした。その中で、6月下旬の英国のEU離脱決定は、ユーロ圏にとどまらず世界全体の金融市場の混乱に波及し、世界経済の先行き不透明感を強めています。わが国経済も、急激な円高の進行や株価下落により企業業績に影響が出始めています。

このような状況のもと、当社グループの当第1四半期の業績については、売上高は円高や原料市況の影響を受け136,058百万円(前年同期比2.4%減)と減収になりましたが、営業利益は販売数量の増加とスプレッドの確保により8,779百万円(前年同期比2.0%増)と増益になりました。経常利益は7,131百万円(前年同期比11.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,600百万円(前年同期比10.7%減)となりました。

セグメント別では、売上高は、機能性樹脂事業、食品事業、ライフサイエンス事業が増収、化成品事業、発泡樹脂製品事業、エレクトロニクス事業、合成繊維、その他事業が減収となりました。営業利益は、化成品事業、機能性樹脂事業、食品事業、ライフサイエンス事業が増益、発泡樹脂製品事業、エレクトロニクス事業、合成繊維、その他事業が減益となりました。

各セグメントの状況は次の通りです。

#### ① 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、原料価格下落の影響を受け売上高は減少しましたが、インドなどアジア向け販売が増加し収益が改善しました。塩ビ系特殊樹脂は、塩ビペースト樹脂のアジア向け需要や塩素化塩ビの米国向け需要など海外市場での販売が堅調に推移しました。か性ソーダは、国内需要が低調に推移する中、コスト低減に努め採算が改善しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は22,926百万円と前年同期と比べ4,069百万円(15.1%減)の減収となりましたが、営業利益は1,933百万円と前年同期と比べ603百万円(45.4%増)の増益となりました。

#### ② 機能性樹脂事業

モディファイヤーは、製品差別化力の向上と非塩ビ用途向けなど新製品の拡充をグローバルに進めた結果、欧州・米国・アジア市場での販売数量が着実に増加しました。変成シリコンポリマーは、オンリーワン製品としてユニークな品質特性への評価が高く、建築用途などでの他素材からの置き換えも進み、国内・海外市場ともに販売数量が順調に増加しました。また、前年度第4四半期会計期間よりセメダイン株式会社を連結子会社化したことも寄与しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は27,164百万円と前年同期と比べ3,480百万円(14.7%増)の増収となり、営業利益は3,744百万円と前年同期と比べ133百万円(3.7%増)の増益となりました。

#### ③ 発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野における需要低調の影響を受けました。押出法発泡ポリスチレンボードは、住宅関連市場が緩やかながら回復してきており、販売は堅調に推移しました。ビーズ法発泡ポリオレフィン は、海外市場での自動車分野向けの需要が伸び悩みました。

以上の結果、当セグメントの売上高は15,384百万円と前年同期と比べ1,194百万円(7.2%減)の減収となり、営業利益は1,271百万円と前年同期と比べ66百万円(5.0%減)の減益となりました。

#### ④ 食品事業

食品は、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売に注力し、製品ミックスの高付加価値化を進めています。また、グループ会社を含めたサプライチェーン全体の強化・効率化を目指した事業構造改革が進み、収益性が改善しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は36,326百万円と前年同期と比べ1,043百万円(3.0%増)の増収となり、営業利益は901百万円と前年同期と比べ535百万円(146.5%増)の増益となりました。

⑤ ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業において国内市場での償還価格改定の影響を受けましたが、欧米市場における他社との共同事業などに取り組み、販売は拡大しました。また、消化器内治療など新領域への事業拡大にも注力しています。医薬品は、APIやバイオロジクス分野における販売が順調に拡大しました。機能性食品素材は、最大市場である米国を中心に全拠点において還元型コエンザイムQ10の販売数量が増加しました。また、日本では機能性表示食品制度のスタートにより当社製品の認知が進み、販売が拡大しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は15,036百万円と前年同期と比べ449百万円(3.1%増)の増収となり、営業利益は2,845百万円と前年同期と比べ301百万円(11.9%増)の増益となりました。

⑥ エレクトロニクス事業

超耐熱ポリイミドフィルム、超高熱伝導グラファイトシートは、高機能品や新製品の市場開発を積極的に進めましたが、全般的にスマートフォン市場などの需要低迷の影響を大きく受けました。太陽電池は、引き続き事業構造改革を進め採算が改善しました。また、世界最高レベルの変換効率を誇るヘテロ接合技術を用いた新製品や高性能品の販売拡大に注力するとともに、ネット・ゼロ・エネルギーハウスの実現に貢献するソリューションの提供に取り組んでおります。

以上の結果、当セグメントの売上高は8,045百万円と前年同期と比べ2,289百万円(22.2%減)の減収となり、585百万円の営業損失となりました。

⑦ 合成繊維、その他事業

合成繊維は、円高進行の影響を強く受けましたが、アフリカ市場での頭髮分野向けの販売が引き続き堅調に推移するとともに、高付加価値品の拡販やコストダウンに努めました。尚、マレーシアにおける新工場は本年7月に商業運転を開始しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は11,175百万円と前年同期と比べ735百万円(6.2%減)の減収となり、営業利益は3,932百万円と前年同期と比べ93百万円(2.3%減)の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の総資産は、前期末に比べ12,431百万円減の564,820百万円、有利子負債残高は5,089百万円減の108,786百万円となりました。また、純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により5,599百万円減の303,123百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期の営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により16,705百万円となりました。投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により11,095百万円、財務活動による資金の支出は、配当金の支払額等により5,585百万円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、42,303百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の世界経済については、主要国の政治・経済情勢や金融政策の動向、中国情勢、地政学リスクに加え、英国のEU離脱の影響が見通せない中でより不透明感が強まり、実体経済を下押しするリスクが高まっています。また、わが国経済も、経済対策や金融政策の効果が期待される一方で、世界経済の先行き不透明感や円高の継続により外需や企業収益の下振れが懸念される状況にあります。

このような経営環境のもと、当社グループは、競争力のある製品群の収益力を強化するとともに、R&D強化による新規事業の創出に組み、事業構造の変革を加速することで収益の拡大に努めてまいります。平成28年5月12日公表の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	43,447	42,678
受取手形及び売掛金	121,682	116,469
有価証券	110	110
商品及び製品	51,745	49,549
仕掛品	10,125	9,958
原材料及び貯蔵品	31,828	31,000
その他	15,113	16,200
貸倒引当金	△345	△338
流動資産合計	273,708	265,627
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	69,204	69,751
機械装置及び運搬具(純額)	88,753	86,912
その他(純額)	61,757	60,759
有形固定資産合計	219,715	217,423
無形固定資産		
のれん	4,123	3,674
その他	8,074	7,694
無形固定資産合計	12,197	11,368
投資その他の資産		
投資有価証券	55,602	54,715
その他	16,242	15,896
貸倒引当金	△215	△211
投資その他の資産合計	71,629	70,400
固定資産合計	303,542	299,192
資産合計	577,251	564,820

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	64,819	62,090
短期借入金	52,695	50,335
未払法人税等	3,708	2,428
引当金	134	19
その他	42,191	45,060
流動負債合計	163,550	159,934
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	53,773	51,061
引当金	303	291
退職給付に係る負債	36,667	36,420
その他	4,233	3,989
固定負債合計	104,978	101,762
負債合計	268,528	261,696
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	34,936	34,936
利益剰余金	234,377	235,647
自己株式	△15,558	△15,428
株主資本合計	286,801	288,202
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,450	16,739
繰延ヘッジ損益	△51	△54
為替換算調整勘定	△1,082	△7,579
退職給付に係る調整累計額	△10,909	△10,472
その他の包括利益累計額合計	5,406	△1,367
新株予約権	228	230
非支配株主持分	16,285	16,057
純資産合計	308,722	303,123
負債純資産合計	577,251	564,820

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	139,374	136,058
売上原価	100,738	94,321
売上総利益	38,636	41,737
販売費及び一般管理費	30,028	32,957
営業利益	8,607	8,779
営業外収益		
受取配当金	615	733
為替差益	253	—
持分法による投資利益	67	37
その他	139	164
営業外収益合計	1,075	935
営業外費用		
支払利息	302	324
固定資産除却損	786	485
為替差損	—	1,349
その他	550	424
営業外費用合計	1,639	2,584
経常利益	8,044	7,131
特別損失		
訴訟関連費用	191	184
特別損失合計	191	184
税金等調整前四半期純利益	7,852	6,946
法人税、住民税及び事業税	2,428	2,346
法人税等調整額	108	△271
法人税等合計	2,536	2,075
四半期純利益	5,315	4,871
非支配株主に帰属する四半期純利益	165	270
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,150	4,600

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	5,315	4,871
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,104	△703
繰延ヘッジ損益	△8	△2
為替換算調整勘定	1,749	△6,845
退職給付に係る調整額	60	436
持分法適用会社に対する持分相当額	12	△2
その他の包括利益合計	4,918	△7,116
四半期包括利益	10,233	△2,245
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,918	△2,173
非支配株主に係る四半期包括利益	315	△72

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	7,852	6,946
減価償却費	6,289	6,634
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△24	541
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	108	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	10	14
受取利息及び受取配当金	△627	△747
支払利息	302	324
持分法による投資損益(△は益)	△67	△37
固定資産処分損益(△は益)	101	130
売上債権の増減額(△は増加)	1,854	3,584
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,631	1,163
仕入債務の増減額(△は減少)	376	△2,023
その他	5,292	3,125
小計	19,837	19,657
利息及び配当金の受取額	654	750
利息の支払額	△192	△239
法人税等の支払額	△2,751	△3,464
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,548	16,705
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△9,551	△10,116
無形固定資産の取得による支出	△900	△425
投資有価証券の取得による支出	△10	△10
投資有価証券の売却による収入	17	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△102
貸付けによる支出	△850	△67
貸付金の回収による収入	324	30
その他	△221	△403
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,193	△11,095
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,909	△1,568
長期借入れによる収入	2,892	17
長期借入金の返済による支出	△279	△590
リース債務の返済による支出	△31	△44
自己株式の取得による支出	△1,483	△1
自己株式の売却による収入	-	87
配当金の支払額	△2,680	△3,330
非支配株主への配当金の支払額	△72	△155
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△4	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,568	△5,585
現金及び現金同等物に係る換算差額	246	△881
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,033	△857
現金及び現金同等物の期首残高	28,020	43,161
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,053	42,303

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	26,995	23,683	16,578	35,283	14,586	10,335	11,911	139,374	—	139,374
セグメント間の 内部売上高又は振替高	249	165	13	1	4	72	327	834	△834	—
計	27,245	23,849	16,592	35,284	14,591	10,407	12,238	140,209	△834	139,374
セグメント利益	1,329	3,610	1,338	365	2,543	141	4,025	13,354	△4,746	8,607

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	13,354
セグメント間取引消去	1
全社費用(注)	△4,737
その他の調整額	△10
四半期連結損益計算書の営業利益	8,607

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	22,926	27,164	15,384	36,326	15,036	8,045	11,175	136,058	—	136,058
セグメント間の内部売上高又は振替高	207	209	22	1	4	54	390	891	△891	—
計	23,133	27,374	15,407	36,327	15,041	8,099	11,565	136,949	△891	136,058
セグメント利益又は損失(△)	1,933	3,744	1,271	901	2,845	△585	3,932	14,042	△5,262	8,779

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	14,042
セグメント間取引消去	△16
全社費用(注)	△5,255
その他の調整額	9
四半期連結損益計算書の営業利益	8,779

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。